

厚生労働科学研究費補助金（難病・がん等の疾患分野の医療の実用化研究事業）
分担研究報告書

WT1 がんワクチンの肺がん治療に関する研究

研究分担者 山下 素弘 国立病院機構四国がんセンター 胸部外科

研究要旨

肺がんの治療における診療状況を明らかにし、がんワクチン治療時の対照群としての診療状況を明らかにし、標準化の可能性を検討する。施設内での経過観察状況、再発状況、予後を診療録から後ろ向きに検討し、さらに抗がん剤治療患者の服薬指導で代替治療に関する調査も行った。肺癌術後再発の多くは3年以内の再発であった。経過観察期間に約30%の患者は何らかの補完代替療法を行うなど患者多様性に富むことが明らかになった。

A. 研究目的

肺がん免疫療法に向け、手術対象例を中心にその術後補助治療状況を把握し、がんワクチン治療時の対照(コントロール)群としての診療状況を明らかにする。

B. 研究方法

四国がんセンター胸部外科における術後病期別治療状況、術後補助治療状況を後ろ向きに検討した。診療録の記載から情報を抽出し、集計する。集計にあっては患者さんの氏名や生年月日、住所等の患者を特定できる情報は解析の対象としない。

(倫理面への配慮)

解析用の情報と患者を特定できる情報は区別して保管し、必要な場合は登録時に決定される登録番号を用いて匿名化し、データの照合を行うなど倫理面に配慮した。

C. 研究結果

当施設での治療成績の現状と、術後補助治療状況を明らかにした。術後の補療法は診療ガイドラインに従いながら経過観察をするが、病期及び経時的に変化させているが、検査内容・項目・頻度に統一したものは認めなかった。肺癌術後再発

の多くは3年以内の再発であった。術後補助療法中の薬剤師による患者聞き取り調査では多くの患者でサプリメントをはじめとする補完代替医療に関心を寄せ、約1/3の患者で実際に利用していたが、直接医師に相談する頻度は低いことが明らかになった。

D. 考察

肺がん術後の経過観察における標準的な方法はいまだ明らかではないが、再発例の多くは術後3年以内に診られ、標準的な経過観察の確立が求められる。肺癌がん治療患者の多くは補完代替医療に興味を示し、約30%の患者が何らかの補完代替医療を実践していた。がん免疫療法に対する関心も高く、ワクチンによる免疫療法の臨床試験では補完代替医療に関する情報収集も必要であると考えられた。

E. 結論

肺がん術後の患者において3年以内の再発頻度が高く、術後経過観察方法では標準的方法の確立が求められる。がんワクチン治療においても、治療後綿密な経過観察とともに補完代替医療に関する患者・医療者間の情報共有が必要であると考えられる。

G . 研究発表

1 . 論文発表

- 1) 山下素弘、新海哲 肺血栓塞栓症・気胸成人病と生活習慣病 特集- オンコロジック・エマージェンシー 日本成人病学会準機関誌（東京医学社），2013，43:460-465.
- 2) Yuki Tanabe, Yoshifumi Sugawara, Rieko Nishimura, Kohei Hosokawa, Makoto Kajihara, Teruhiko Shimizu, Tadaaki Takahashi, Shinya Sakai, Shigeki Sawada, Motohiro Yamashita, Haruhiko Ohtani. Oncocytic carcinoid tumor of the lung with intense F-18 fluorodeoxyglucose (FDG) uptake in positron emission tomography-computed tomography (PET/CT). *Annals of Nuclear Medicine*. 2013;10.1007/s12149-013-0738-0
- 3) Shigeki Sawada, Natsumi Yamashita, Hiroshi Suehisa, Motohiro Yamashita. Risk factors for recurrence after lung cancer resection as estimated using the survival tree method. *Chest* 2013; 144(4): 1238-1244.
- 4) Shungo Yukumi, Motohiro Yamashita Hiraku Ichiki, Hideaki Suzuki, Kei Ishimaru, Seiya Ueda, Akira Wtanabe, Chika Sato, Masahiro Abe. A case report of tuberculous abscess of the chest wall accompanied with pulmonary carcinoma. *Respiratory Medicine Case report* 2013; 10: 31-33.
- 5) 宮部貴識 所明宏、山下素弘 がん補完代替療法における薬剤管理指導による医療コミュニケーションに関する検討 日本補完代替医療学会誌 2013 ; 6 : 29-33.
- 2) 末久弘、山本将一郎、渡邊元嗣、上野剛、澤田茂樹、山下素弘、原田大二郎、上月稔幸、北島寛元、野上尚之、新海哲、高畑浩之。セルブロック法を用いた気管支鏡検査が有用であった乳癌孤立性肺転移の1例第21回日本呼吸器内視鏡学会中国四国支部会（徳島）H25.2/16
- 3) 末久弘、北島寛元、岸直人、上野剛、澤田茂樹、山下素弘、山本将一郎、原田大二郎、上月稔幸、野上尚之、新海哲、高畑浩之。若年者悪性胸膜中皮腫の1例第53回日本呼吸器科学会（H25/4東京）
- 4) 末久弘、渡辺元嗣、上野剛、澤田茂樹、山下素弘、肺がん術後たこつぼ心筋症を発症した一例 第30回日本呼吸器外科学会（H25/5名古屋）
- 5) 澤田茂樹、上野剛、末久弘、山下素弘 非小細胞肺がん完全切除例に対しプラチナ製剤を含む術後補助化学療法後のUFTメンテナンス療法の検討-中間解析-。第11回日本臨床腫瘍学会（H25/8 仙台）

2 . 学会発表

- 1) 渡部元嗣、河本宏昭、上野剛、澤田茂樹、末久弘、山下素弘、胸壁原発悪性線維性組織球腫の1例。第30回日本呼吸器外科学会（H25/5名古屋）

H . 知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

- 1 . 特許取得
なし
- 2 . 実用新案登録
なし
- 3 . その他
なし